



いまさら聞けない フリーアドレス成功のポイント

オフィス移転やリニューアルを機に、社長から「うちもフリーアドレス導入を検討してみようか」と言われた場合、何からどのように対応すればよいのでしょうか？

フリーアドレスを導入することで、社内コミュニケーションの活性化や執務スペースの効率化が図れるなどのメリットがありますが、フリーアドレス用のデスクやイスを用意しただけではそのメリットを十分に活かすことができず、思ったような効果が得られないケースが多いのも現状です。

今回は、どのように進めれば「フリーアドレスを成功させることができるのか」について考えていきたいと思います。

フリーアドレスとは

フリーアドレスとは、デスクを共用で利用することで、社員が自分の働き方に合ったスペースを自由に選択できるオフィス利用形態のことです。

フリーアドレスには、デスクを共用することで得られる“スペース効率の向上”というメリット以外にも、様々なメリットがあります。

▶組織変更・人数変更への柔軟な対応ができる

席と人が結びついていないので、組織変更やプロジェクトだけでなく、急なメンバー増減などもレイアウト変更工事が不要なため臨機応変に対応できます。

▶コミュニケーションの促進

日によって異なる様々な人と席を接して会話することで、チーム内に固定しがちなコミュニケーションが柔軟になり、新たな情報や発想を得ることができます。

▶自律的な働き方の促進

自分が集中しやすい場所など好みの場所を選んだり、今日の仕事に必要なものや環境を考えて仕事に向かうことで、仕事の組み立てに対して自律的に取り組むことができます。

ただ、その反面、「部署内のメンバーがばらばらの席に座ることで、一体感が弱まってしまふ」「フリーアドレス化したにも関わらず、いつも同じ席に座ってしまふ」「固定席という既得権がはく奪されて、社員のモチベーションが低下してしまふ」といった不安や課題が生じる可能性もあります。

フリーアドレスを成功に導くポイント

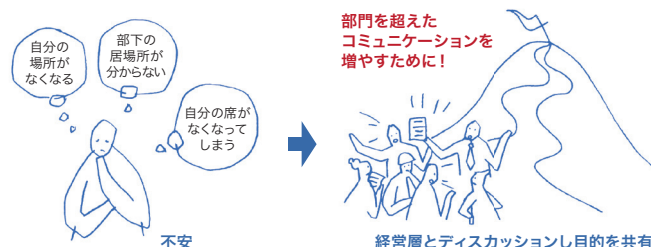
フリーアドレスを成功させるには、導入時に想定される不安や課題に対して、事前に準備をしておくことが大切です。

▶目的の明確化と社員への浸透

フリーアドレスを導入するとなると、「自分の席がなくなってしまうのではないか」などといった不安を持つ社員が必ず出てきます。その為、事前に『フリーアドレス導入の「目的」』を全社で、「目線合わせ」しておくことが大切です。

例えば、「部下の居場所がわからなくなる」という不安の声があったとします。経営視点でのフリーアドレス導入の意図が「新しい価値を生むために、部門を超えたコミュニケーションを増やしたい」ということである場合などは、『経営層と社員がフリーアドレス導入の目的について、ディスカッションの場をもつ』というのが非常に有効です。まずは、「目的」から理解してもらうように動いていきましょう。

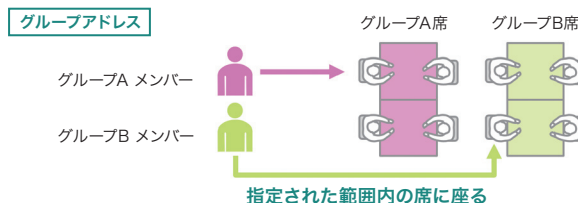
「フリーアドレス」は、あくまでも「目的」ではなく「手段」のひとつであることをディスカッションを通して、社員へ浸透させることが大切です。



▶運用が維持できる仕組み

運用ルールはどんなオフィスにも必要ですが、特にフリーアドレスの場合は、維持する仕組みがないと、なほ崩壊的にフリーアドレスが形骸化する危険があります。総務担当者だけでなく、利用する社員も参加する形で仕組みをつくりましょう。

「チーム内のコミュニケーションが希薄になってしまうのではないか」という不安に対しては、エリアを決めて席を選ぶ「グループアドレス運用」を行う、新入社員や若手社員が多い部署は、フリーアドレスではなく、「席を固定」するなど、現場の状況も加味した上で、運用を決めることがフリーアドレスを維持する上でとても重要です。



▶働き方をサポートするツール

社員は自席の代わりにどこでも仕事ができる環境を手にしたわけですが、それを支えるツールが十分でないと、仕事がつらくかえって効率下がりが恐れます。「パソコンや書類等、その日の仕事に必要な物の移動に手間がかかる」、「荷物の置き場がない」など、固定席とは異なるフリーアドレス特有の困りごとに、前もってツールで対処しましょう。

〈ツール例〉

●モバイルバッグ
パソコンやノートなど仕事に必要な道具をまとめて収納・移動できるので、社内移動が楽に。



コクヨ モバイルバッグ
(mo-baco up) モバコアップ

●ワゴン
ワゴンを使用することで、今まではデスク上に荷物を置き、作業スペースを無駄にしていた現状を解決。



コクヨ フリーワゴン
(Free Wagon)

このようにフリーアドレスとは、ただ席を共有すれば良いというわけではなく、新しい働き方に挑戦し、それを支える運用ルールやツールを事前に準備することが非常に重要です。

フリーアドレスの導入を検討する際は、ぜひ今回ご紹介した成功のポイントを考慮してみてはいかがでしょうか。

「フリーアドレス導入を検討している」と「導入済みだが上手くいっていない」という総務担当者の方、必見！

『はじめてのフリーアドレス導入ガイド』

『残念なフリーアドレス事例から学ぶ“成功の秘訣”』

コクヨマーケティングのホームページで資料公開中

コクヨマーケティング 資料ダウンロード

検索

<https://www.kokuyo-marketing.co.jp/download/>



Office Renewal お客様の声

株式会社日本シューター 様



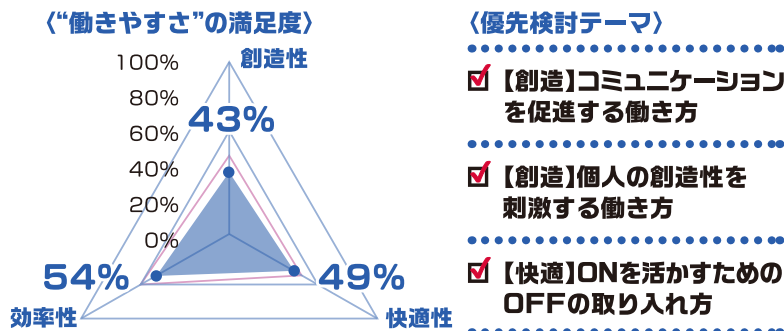
オフィスリニューアルの狙い

- オフィスリニューアルによって働き方改革を推進したい
- 社員にとって働きやすく、魅力あるオフィスにすることで、人材採用力を高めたい

限られた期間の中で『社員の意見を取り入れたオフィスづくり』を実現するため、『はたナビPro』を実施

- 働く環境診断『はたナビPro』により、働く環境の課題など現場の声を見える化

診断結果



- 『当初想定していた課題』と『診断結果』が合致し、リニューアルの方向性がより明確に



- 組織ごとに座席を固定した『島型対向』のレイアウトで、他部署との連携意識が希薄になっていた。
- デスク上や通路に荷物や書類が積まれている状況が常態化し、コミュニケーションを遮断する一因となっていた。
- オフィス内に気分転換や集中ワーク、気軽な打合せなどをする場所がない。

Before

理想とする『コミュニケーションを促進する働き方』を実現するため、座席の運用を“固定席”から“フリーアドレス”に変更※

After



- ・座席をフリーアドレス運用にすることで、気軽にコミュニケーションが取れる環境に
- ・大型デスクを配置することで、空いている時は打合せスペースとして転用し、限られた空間を有効活用する工夫も



- ・役員席を執務スペースの中央へサークル型に配置
- ・社員⇄役員と役員同士のコミュニケーションを効率的に行い意思決定のスピードUPを実現

効率性

- ・フリーアドレス移行により、個人の収納スペースが減ったため、文書を集中管理式に変更
- ・補充カードによる在庫管理を行い、総務業務の効率化を実現

※設計部門は業務特性を考慮し、固定席運用を継続。

- ・フリーアドレス移行により以前と比較し、コミュニケーションが促進しました。
- ・新設した「集中席」や「リフレッシュスペース」は稼働率が高く、新しい働き方が社員に定着しているように思います。
- ・オフィスの快適性や美観が向上し、人材確保にも良い効果をもたらしていると実感しています。

快適性・創造性



- ・カウンターテーブルとソファ席を備えたリフレッシュスペース。カフェ風のデザインにすることで、気分転換できる空間に

立っている人と座っている人の視線の高さが合う設えで、偶発的なコミュニケーションを促進

個人の創造性



- 窓際のデッドスペースを活用した集中席。解放感のあるオフィスの中でも、集中して業務ができる環境を用意

チームの創造性



- 予約フリーのミーティングスペース。モニターをつけ、ペーパーレスでの打合せが可能に



オフィスリニューアルを担当された
総務部 課長 若山様

オフィス内に、組織を超えたコミュニケーションを加速させる仕掛けを散りばめ、働き方改革を促進

お客様情報

株式会社日本シューター

所在地 | 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-9

設立年 | 2003年5月

従業員数 | 175名(2019年3月現在)

事業内容 | 搬送システム事業(医療関連施設等の搬送システムに関わる搬送設備機器のエンジニアリング及び機器製造、施工)
医療関連事業(レンタル事業、医療廃棄物事業、病院リフォーム事業)